

「育暮家みつけた」
家を建てること、それは新しい「実家」の誕生です。その一方で多様化する家と暮らしは、生まれた家、「実家」のつなぎ方を変えていきます。「実家が消える」…つなぐ人を失くした住まいは実家という役目を終え、住宅ストック市場へと流れていきます。家のつなぎ方は一つはなくなりました。育暮家ハイホームズの仕事は家づくりを通じた「つなぐお手伝い」としてはす。「育暮家みつけた」は、それぞれのご家族の家と暮らしをつなぐメッセージや物語をお届けできたらとスタートしました。

育暮家みつけた Vol.150

家をつなぎたいと思う気持ちを
そつと後押しする。
家を守るお話です。



育暮家の家づくりは「10の育む」の実践です。
① 家族を育む ② 思いを育む ③ 暮らしを育む ④ 手技を育む
⑤ 風土を育む ⑥ 地域を育む ⑦ 未来を育む ⑧ 健康を育む
⑨ 感謝を育む ⑩ 笑顔を育む



1.耐震補強の壁が開放感のある広縁をつくった。2.大きなソメイヨシノはご近所の花見場所にもなっている。3.楽しくリフォームを振り返るご夫婦。4.断熱サッシ、床板の隙間のふさぎ、広縁は生活空間温熱パuffersの役割とした。

育暮家みつけた 連載50回記念号

しあわせづくり、家づくり。

満開の桜に包まれた一軒家。小高い場所に佇む家は、いつの頃からこの地のうつろいを眺めていた古の痕跡。幼少の頃、祖父から「50年後にお前が屋根瓦を葺き替えるんだぞ」と言われ、「この家を壊すわけにはいかない」と。歴史というバトンを受け取った竹内さんにとって、もはやそれは使命であり願ひ。桜の艶やかさに誘われ、その想いを取材しました。



家相図を見ながらつづる家の構えに思いを馳せる。

遡れば16代以上も続くという竹内家。かつて庄屋だった屋敷も曾祖父の頃に自滅りしたものの、凜とした佇まいの母屋は歴史を紡いできた力強さを感じさせます。ご主人が知っているだけで3度、この家は手直しを施しているそう。今回はおおよそ30年ぶりのリフォームだそう、3人の子育で、自身の仕事が一と段落したところで決意したものでした。祖父、父から託された愛着のあるこの家を守ることはご家族にとっては自然なこと。歴史的な価値を含めて残していくべきものであることは言うまでもなく、建て替えという選択肢はありませんでした。「今回のリフォームは、私の定年退職を機に少しずつ動き出しました。水回りを中心に暮らしやすさを求めながら、母と妻と家族3人で暖かく心地良い住まい、そして子どもたちに残してい



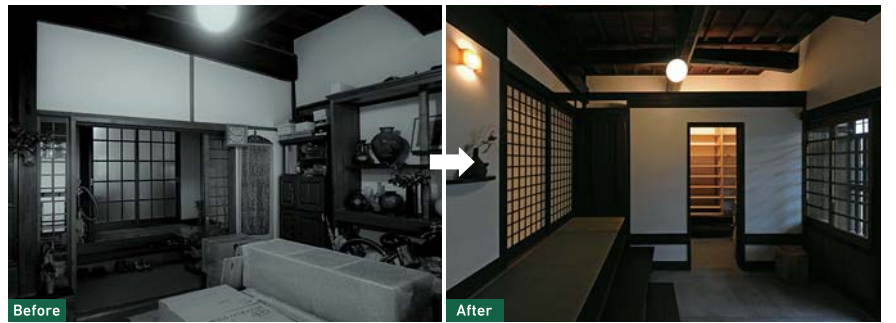
北側で寒く暗かったコタツリビングとダイニング。従前のリフォームで付けた天井を外し、光を反射する白色の断熱強化した勾配天井に。

家守りの務めなのだそう。そのため竹内さん家族と幾度も会話を重ねたと言います。「これから80歳まで、まあ20年快適に暮らせます。そして子どもたちにこの家を託すことができます。本当にリフォームして良かったと家族全員が思っていますよ」

常に四季を感じられる素敵な風景が。今は桜ですが、これから新緑、秋には茜色のもみじが盛大に周囲を彩るそう。散策しながら裏山を手入れすることも主人の密かなライフワークだそうで、タケノコや山菜、ブルーベリーに栗や銀杏、自身で植えた果樹園で収穫する果物など、季節ごと楽しみは尽きないとのこと。そして「何より50年の時を経て祖父の思いを実現すること

く住まいを模索していきました」とご主人。玄関を一步入ると古民家らしい立派な土間の上り間口が。「それでも土間は半分以上も削ったんですよ」と奥様。壁を隔てて横には大きな玄関収納があり、靴はもちろん、ご主人の趣味であるスキー板も専用の棚に収納されています。反対側には広い客間と仏間、いわゆる田の字型の間取りが広がり、古い家

ならではの素敵な趣を醸しています。そんな空間を横目に家族の生活スペースへと進むとまず感じたのは、暖かさでした。育暮家は「ほーむすが手掛ける古民家リフォームの肝である断熱対策が施された空間。家全体ではなく、生活スペースを限定した断熱を行うことで、経済的なりフォームが叶います。それと共に120年以上の間、この家を



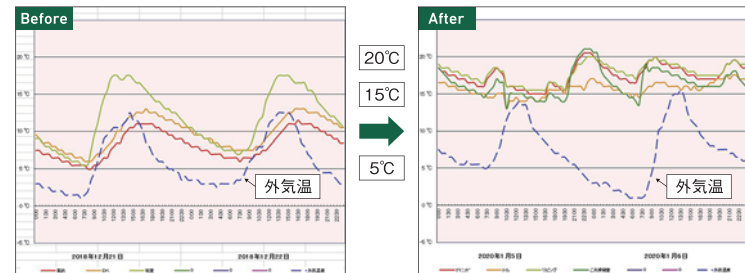
かつては土間、以前のリフォームでは板の間の玄関ホール、そして今度はしっかり断熱区画されリビングの一部が変わった。

ができ、正直ほっとしています」と話してくださいました。家は劣化する、暮らしは陳腐化する、それは思い込みなのだと言います。大切なのは暮らしの在り方を描く想像力。そしてそれを表現する手伝いをしてくれるパートナーの存在です。その両方があれば、いつまでも暮らしは楽しく喜びにあふれているはず。こうした家が軒でも多く残っていくこと、それは多くの日本人の心の中にある「ふるさと」への思いかもしれません。



それぞれの時間が持てる居場所ができたことがうれしい。

上に料理を手伝ってくれるようになったんですよ」と奥様も嬉しそうに話してくれました。そんなキッチンを中心にリビングと寝室、トイレと洗面所、さらにはお母様の居室と浴室がバリアフリーでつながった間取り。今までも少ししゆとりのある距離感が、逆に家族の会話を生み出しているのだそう。 「そういえば以前の家はリビングがなかったですね。ダイニングで食事をしたら各自の部屋へ、みたいな流れで。今はこの場所(リビング)に集う感じができました」



【温度改善実測】この冬の生活空間の室温は平均15~20°C。以前より10°Cも温かくなった。

古民家に暮らす。

それはほんごの方にとって「実家に暮らす」を意味しているのではないのでしょうか。長年使われてきた家には、不具合が多く、メンテナンスでは追いつかない手当も必要です。また、長く家族の暮らしを支えてきた家のつくりにも、近年のライフスタイルの変化に合った暮らしやすさへの改善が求められています。

あきらめたら終わり。

愛着が深いゆえに、これからの対応には迷いと悩みを抱える方が多く、ご相談を受けるたびに、私たちが答える責任を感じています。日本の伝統技術や、今では手に入りにくい素材、景観や住文化……これらの価値や魅力を残す大切を、残すためのノートやリスト。多くのお話を伺う中で、これだけは言えるのが「あきらめたら終わり」ということです。この大きな転機の中で、よかたの未来を一緒に考え、形にしていけたらと思います。

育暮家古民家リフォームの動画が見れます

www.hihomes.co.jp

生活を慈しみ、愛情と手間をかけながら、家が家族を育み、家族が家を育てていく。年を追うごとに心地よさ、愛着が増していく。そんな家と人との「育暮家」。

育暮家 それは 家づくり。
育暮家 それは 家、家族 して暮らす方。
育暮家 私たちみんなが「育暮家」。

大切なものを残し育む住まい

いくばーや 育暮家 はいほーむす 藤枝市青南町2-8-7
Tel/054-636-6611 | hihomes@tokai.or.jp
住まいの知恵、暮らしの知恵を育む集いの場「育暮家むばす」のイベントはHPから

「いくばーや」又は「育暮家」検索

※育暮家むばすとは育暮家はいほーむすの新拠点の名称です。

わが家は古民家ですか？

思い出と歴史が詰まったわが家。でも、課題は少なくありません。わが家のこれから...

ご相談はまずお電話で
詳細はHPで 育暮家 検索

た。お酒が好きなご主人はリビングを中心に、書斎やダイニング、時には玄関の畳で横になりながらチビチビやるのが楽しみなのだとか。「しっかりと建てられた家は100年以上、当たり前前に持ちます。大きな石を基礎に、大黒柱を軸にした免震構造の建築。土の壁と柱同士も家を支え合います。もちろん天井裏や床下まで隅々を手チェックしてみただけで



5. 3帖の小さな座の書斎は畳敷き、ゴロっといつでも自由。6. 玄関土間の中に脇玄関とシューズクロークができた。スキー板もここに収まる。7. 愛するわが家にはお酒がおいしい場所がいくつもできた。

すが、少し手を施すだけで快適な暮らしを実現することは可能。大事なのは、先を見てちゃんと手を入れることです。大事な壁や柱はもちろん残し、必要な補強する、その上で暮らし方を考えた動線の確保と断熱を行うことで驚くほど快適な住まいへと生まれ変わるので。もちろんそれなりにコストは掛かりますが、それだけの価値はあります」と育暮家はいほーむす。壊してしまえば二度と手に入らない価値を見極めることも